

第29回 先端医療センター Monthly Lecture

多くの研究機関や関連企業が集積し、クラスターとしての体制が整いつつある神戸医療産業都市における次の課題は、意見交流の場を様々な形でつくりだし、関係者の縦横の協力関係を構築し、最近の研究開発をめぐる大きな変化に対応する体制を作り上げることです。その一つの試みとして、優れた研究者による講演会を定期的に開催し、交流、協力関係構築のきっかけを提供したいと考えております。

学会や交流会は盛んに行われており、最新のトピックスを伺う機会は豊富にあります。優れた研究者の一連の研究の歩みや領域全体の研究の流れを伺う機会は多くはありません。そこで、本レクチャーシリーズでは優れた研究者をお招きし、十分な時間を取って一連のストーリー、考え方、研究に対する思い入れをお話しいたします。

先端医療センター長 鍋島 陽一

日時・場所

2014年7月18日（金）16:30～18:30

神戸臨床研究情報センター（TRI）第1研修室 ※参加費無料



■ 講師 高井 義美 先生 神戸大学大学院医学研究科
生化学・分子生物学講座 特命教授

■ 演 題 細胞におけるシグナルの受容伝達と応答の機構—歴史と展望—

■ 講演内容

細胞は細胞膜の受容体を介して細胞外のシグナルを受容して細胞内に伝達し、特異的な機能を発現して応答している。現在では、シグナルの受容伝達に関わる数多くの分子が同定され、その機能や作用機構が解明された結果、細胞の応答機構のほぼ全貌が理解されている。またその結果、内分泌疾患や循環器疾患など多くの疾患の発症や進展に関わる分子機構の理解が進み、すでにこれらの分子を標的とした診断法や治療法が確立している。しかし一方で、がんの進展機構は十分には理解されておらず、依然としてがん治療は容易ではない。また、精神・神経疾患領域では、発症や進展の機構が未解明な疾患が多く、診断法や治療法の開発も遅れている。本講演では、私共がこれまで研究を行ってきた細胞におけるシグナルの受容伝達と応答の機構に関する成果を紹介し、現在なお治療が困難な疾患に対する新しい診断法と治療法を開発するための展望について議論したい。

■ お申込み

- ◎参加を希望される方は、事前にEメール (monthly-sanka@fbri.org) にて、お名前・ご所属・メールアドレスをお知らせ下さい。
- ◎当日参加の方も歓迎です。
- ◎事前申込をいただいた方には、今後の「先端医療センターMonthly Lecture」のご案内をはじめ、当財団からのシンポジウムや講演会等のご案内をお送りさせて頂きたく存じます。連絡不要の方はお手数ですが、その旨お知らせください。

■ お問合せ Mail:monthly-sanka@fbri.org TEL:078-306-0708